

2011 AUTOBACS SUPER GT ROUND8 ツインリンクもてぎ

開催日:2011年10月16日(決勝) 開催地:ツインリンクもてぎ/4.801Km
天候:晴れ コースコンディション:DRY 観客動員総数:36000人

「ファイナルラップで9位フィニッシュ」



今季最終戦となるRd8。今季、市販エンジンを搭載するカローラ勢に於いてはパフォーマンス不足が顕著であり、この最終戦が行われるツインリンクもてぎサーキットもエンジンパフォーマンスが必要なコースと呼ばれ、ストップ&ゴーの特徴あるレイアウト。カローラ勢に於いては、戦う前からその劣勢さが予想されるが、我々は持てる力を最大限生かし果敢に挑む事とした。

公開練習 10月15日(土)9:45~11:30

今季パワー不足が否めない2台のカローラに於いてツインリンクもてぎは相性の悪いサーキット。最終戦、レースウィークの始まりは朝から雨。エンジンパフォーマンスの低いカローラにとって、雨コンディションはパワーのあるFIA外車勢との差が縮まり順位的にも期待が高まる。まずは、国本選手から持ち込みマシンセットとレインタイヤの確認。少しのズレはあったが細かなセット変更を入れ、マシンバランスは良好になる。その後、新田選手に交代しレインタイヤのロングテスト。アベレージも安定しており、マシンバランスは良好。#74「COROLLA Axio apr GT」が13番手、兄弟車両の#31「ハセプロMAイワサキaprカローラ」が12番手。午後からの予選はノックダウン方式。最初のQ1予選で16台に絞られ、その後Q2予選で10台に絞られ最後のQ3で1~10番グリッドを決める。コンディションが雨ならば、前述の事からカローラ2台は最終のQ3までいける可能性ありと推測でき、午後の予選に向け期待の高まる状況であった。

公式予選 13:05~

朝からの雨は止む気配もなく午後の予選が始まった。まずはGT500/GT300の混走から予選は開始され#74は新田選手からアタックし、まずは14番手タイムを記録。その後国本選手で基準タイムをクリアし、混走セッションでは12番手と順調な滑り出し。GT300専有時間になり、国本選手にて新品レインタイヤを装着しアタック開始。アタック中飛び出す車両もあり、なかなかクリアラップが取れずにいたが、10番手でQ2進出を決めた。

Q2は雨コンディションで15:10から開始された。アタッカーは引き続き国本選手。10分間の短時間でTOP10を狙う。もちろん路面はWETで、ドライビングは難しい環境。慎重にタイヤを暖めた後、計測3周目に渾身のアタックで9番手を記録し、難なくQ3進出を決めた。

続くQ3も雨コンディション。次なるアタッカーは新田選手。パフォーマンス的には雨でもFIA外国者勢が強いが、一つでも上のポジションを狙い中古レインタイヤで果敢にアタック。他のマシンのタイムが伸び悩む中、さすがベテラン新田選手。雨脚が強くなる中であつたが早々に8番手を記録し明日のスターティンググリッドを確保した。マシンバランスもタイヤパフォーマンスも良く、明日の決勝も雨ならば上位チェッカーの期待が膨らむ内容であつた。



決勝日・フリー走行 10月16日 9:00～9:45

昨日から降り続く雨は未だに上がりず、朝のフリー走行も雨コンディション。午後の決勝は晴れの予報だが、このセッションでは決勝のセット確認はできない。しかし、昨日のセットで納得が出来なかった箇所を修正し新田選手から走行開始。その後、国本選手にも確認。その様な確認走行であったが、順位は5番手と雨コンディションでは予想以上に良好な結果。午後の決勝は雨を望むパフォーマンスであった。

決勝レース(54Laps) 14:00～

午前中までの雨も止み、雲の切れ間からは強い日差しが降り注ぐ10月とは思えない陽気に包まれたツインリンクもてぎサーキット。昨日からの走行は全て雨コンディションであった為、決勝スリックタイヤの選定が出来ていない事をオーガナイザーが考慮し、スタート前に13分の走行が設定された。(本来は8分間の走行。)

スタートは新田選手。その新田選手にてこの短い時間でソフト系タイヤを確認する。グリップレベルには一定の評価もあるがバランスは微妙と難色を示す。しかしチーム側はタイム優先でこのソフト系タイヤを推奨し、それに合わせたマシンセットを入れ、決勝に挑むこととした。もてぎサーキットはオーバーテイクポイントも少なく、FIA外国車勢に先行されたならば即座にタイムも順位も差が広まっていくサーキット。よって、ソフト系タイヤの利点を生かし新田選手でスタートから攻めていく作戦。タイヤがもつ限り、目いっぱい順位を上げることを指示された#74「COROLLA Axio apr GT」新田選手は、有終の美を飾るべくその瞬間を待つ。



最終戦を楽しみに集まった たくさんのGTファンの応援のもと、決勝の火蓋は切られた。スタートからオーバーテイクのチャンスがあれば順位を上げ、タイヤが厳しくなれば早めのPITインを行い、そのPIT作業でも上位を狙う作戦。冷静なスタートを切った新田選手。#33がトラブルによりPITスタートになったことからオープニングラップでポジションをひとつ順位を上げ7番手。その後、加速とストレートスピードに勝るFIA外車勢を抑える形であったが加速パワーのある#27にパスされ8番手。

6周目には僚友の#31「ハセプロMAイワサキaprカローラ」を頭に、後方から猛烈な追い上げを見せていた#33の2台にかわされ12番手にドロップ。ソフトタイヤのパフォーマンスを思う存分使いきる作戦は成功かと思われたが、実は3周目から異変が起こっており、新田選手から「多分10周持たない！リアタイヤがグリップしない！」とのコメントの後、みるみるタイムは落ち、1周5秒もの落ち幅という相当苦しい展開。規定回数までは残り8周。「予定まで

持たない可能性があるので緊急PITも考えて」とのコメント。そのこともありGT300では最短の15周目にPITイン。その時点では17番手と10台にパスされる程の大幅な順位ドロップ。同じ作戦の#31「ハセプロMAイワサキaprカローラ」も14番手まで大きくドロップしたことを思うとソフトタイヤのチョイスは大きな失敗であった。

PIT作業を問題無くこなし、ハード系タイヤを履いた国本選手は見えないライバルとの勝負に向けコースイン。GT300でも早めのピットインのため、暫定の順位しか分からない状況であったが全車両が35周目にピットを終わらせた時点でのポジションは予想外の12番手。単独でプッシュし続けた国本選手のパフォーマンスの高さを見せつけたはずであったが、もともとエンジンパフォーマンス不足に泣き、更にソフトタイヤが大きくパフォーマンスダウン後にロスした25秒が響きPITでの逆転はたった1台であった。残り15周、国本選手は何とか入賞圏内の10番手を狙いプッシュ続けるが、11番手の#26とは15秒差。その後、6番手の#86がマシントラブルで離脱し10番手。更に上を狙うべく国本選手は諦めず#26との差をプッシュ。9番手の#26をロックオンしたのはファイナルラップの1コーナー。その後チェッカー前の最終で見事に#26をパスし最終的には9番手でチェッカーを受け、なんとかポイント獲得を果たした。最後まで集中力を途切れさせなかった国本選手の怒濤の追い上げも見事であったが、そもそもはスタート時点のソフトタイヤ選択が大きなミス。それが全ての敗因であった。



新田守男選手

「最後のレースは是非表彰台で終わらせたいという気持ちで挑みましたが、決勝の朝まで雨が降り続いたことにより、ドライタイヤの確認ができないままという非常に難しい状況で、結果、スタートのタイヤをミスチョイスしたことでかなりポジションを落とすことになってしまい残念でした。後半チョイスしたタイヤは良いペースで走る事ができるタイヤで、雄資も最後まで諦めずにプッシュしてくれたので、表彰台には届きませんでしたが、最後にポイントを獲得することができて良かったです。今期はとても不利な状況のなかで戦うことになりましたがタイヤの良いパフォーマンス、チームの良い作戦があって、少しでもシリーズ争いに加わることができたのだと思います。1年間応援ありがとうございました。」

国本雄資選手

「今回は予選はウェット、決勝はドライという難しいコンディションでしたが、予選では自分の思うような走りができたとと思います。ドライのテストが出来ず、スタートタイヤの選択をミスしてしまい、前半で順位を上げることができませんでした。後半のタイヤはグリップも終始安定していて、良いペースを保つ事ができました。今年1年、悔いの残らないように全力でレースをし、チームも最高の仕事をしてくれたと思います。結果でお返しすることが出来ず残念ですが、年間を通して自分自身レベルアップすることができた収穫の多いシーズンでした。ありがとうございました。」

apr代表 金曾 裕人

「今季は震災の影響により開幕前の走行が一切無く、レギュレーションが整備されないままシーズンが開幕し、JAFカローラ勢は非常に劣勢な一年間でした。その事から少しでもそれを補うために作戦面で各種トライやチャレンジを重ね好成績を狙った。その苦しい中だからこそドライバーは大きく成長しレース巧者にもなった。しかし、その努力も虚しくチャンピオンシップには参加できなかった。さまざまな要因があるにしても恥ずかしい限りである。応援下さったファンの皆様、スポンサーの皆様には申し訳ございません。オフシーズンの課題と改善点は強く見えています。このままでは、我々aprは終わりません。来期に向け強いエンジニアリングでリベンジを果たしますので これからも応援宜しく願いいたします。そして心から、ありがとうございました。」

本リリースに関するお問合せ

apr

株式会社エー・ピー・アール

〒243-0021 神奈川県厚木市岡田3111

TEL 046-226-5276 046-228-7636

